

タイトル	美馬孝人教授 略歴・著作目録
著者	
引用	季刊北海学園大学経済論集, 58(4)
発行日	2011-03-31

# 美馬孝人教授 略歴・著作目録等

## 1. 学 歴

昭和36年4月 北海道大学文類入学  
昭和37年10月 北海道大学経済学部に移行  
昭和40年3月 同上卒業（経済学士）  
昭和40年4月 北海道大学大学院経済学研究科修士課程入学  
昭和42年3月 同上修了（経済学修士）  
昭和42年4月 北海道大学大学院経済学研究科博士課程入学  
昭和44年3月 同上中退

## 2. 職 歴

昭和44年4月 北海学園大学経済学部講師  
昭和46年4月 同 助教授  
昭和56年4月 同 教授  
平成3年4月 同経済学部長，同大学大学院経済学研究科長  
平成10年4月 同大学院経済学研究科長

## 3. 所属学会

昭和44年4月 日本社会政策学会  
昭和44年4月 北海道経済学会  
昭和50年4月 日本唯物論研究会  
平成4年9月 北海道過労死問題研究会

## 4. 非常勤講師

昭和44年4月から平成22年度まで，北海道大学経済学部・医療短期大学，北海道教育大学岩見沢校，札幌学院大学，札幌大学，北星学園大学で非常勤講師を務める。

## 5. 研究業績

1969年9月 単著 労働者状態論—リカードとマルクス— 北海学園大学経済論集17巻1号  
1970年9月 単著 マルクスのリカード評価の転回について 北海学園大学経済論集18巻1号

1970年11月	単著 40年代・マルクスの国民経済学批判の発展	北海学園大学経済論集 18巻2号
1971年3月	単訳 翻訳「ヘルマン&マリーク『アイゼナッハ党の革命的遺産』(1)」	北海学園大学経済論集 18巻3号
1971年11月	単訳 翻訳「ヘルマン&マリーク『アイゼナッハ党の革命的遺産』(2)」	北海学園大学経済論集 19巻2号
1972年9月	単著 J. S. ミル経済学の性格について	北海学園大学経済論集 20巻2号
1972年12月	単著 書評「荒又重雄『価値法則と賃労働—賃労働論研究序説—』」	北海学園大学経済論集 20巻3号
1973年6月	単著 社会改良思想についての覚書(1)	北海学園大学経済論集 21巻2号
1973年11月	単著 社会改良思想についての覚書(2)	北海学園大学経済論集 21巻2号
1974年6月	単著 社会保障の研究方法について	北海学園大学経済論集 22巻1号
1974年8月	単著 書評「アーサー・リヴィングストン『発展途上国における社会政策』」	開発論集 18号
1974年12月	単著 若きマルクスにおけるルソーの克服似ついで(1)	経済論集 22巻3号
1975年3月	単著 若きマルクスにおけるルソーの克服似ついで(2)	経済論集 22巻4号
1975年3月	単著 根室地方における労働と福祉	開発論集 19号
1975年10月	単著 若きマルクスにおけるルソーの克服似ついで(3)	経済論集 23巻2号
1976年12月	単著 若きマルクスにおけるルソーの克服似ついで(4)	経済論集 24巻3号
1977年3月	単著 北海道開発計画における住民福祉の位置づけと問題点	開発論集 23号
1977年7月	単著 書評「籠山京『戦後日本における貧困層の創出過程』」	経済論集 25巻1号
1978年1月	単著 ファシズム労働統制について	経済論集 25巻3号
1978年1月	共著 著書(荒又重雄他と共著)『社会政策を学ぶ』	有斐閣
1978年3月	単著 地域開発とナショナルミニマム	開発論集 25号
1978年7月	単著 マルクス『貧困化論』ノート	経済論集 26巻1号
1978年10月	単著 富と貧困の概念について	経済論集 26巻2号
1978年12月	単著 マルクスの労働者調査について	経済論集 26巻3号
1979年2月	共著 著書(荒又重雄他と共著)『社会政策(1)—理論と歴史—』	有斐閣
1979年3月	単著 いわゆる福祉型経済の書提言について(上)	経済論集 26巻4号
1979年3月	単著 地域福祉論の課題と最近の北海道労働経済	開発論集 26・7合併号

美馬孝人教授 略歴・著作目録等

1979年7月	単著 書評「高島善哉『現代国家論の原点』」	経済論集 27 卷 1 号
1980年3月	単著 原蓄期の貧困に関する覚書	経済論集 27 卷 4 号
1980年6月	単著 50年代の窮乏化論争と残された課題	経済論集 28 卷 1 号
1982年1月	単著 ビクター・ジョージによる貧困と不平等の説明	経済論集 29 卷 2 号
1982年3月	単著 戦後北海道産炭地域の興隆と衰退	開発論集 31 号
1982年3月	単著 イギリス石炭産業の将来に対する一見解	開発論集 31 号
1982年5月	単著 イギリス貧民法と社会福祉(1)	経済論集 30 卷 1・2号
1984年1月	単著 労働者階級の形成—農民からの土地収奪—	経済論集 31 卷 2 号
1984年3月	単著 L. ホーナーと工場法—マーチン論文を手がかりに—	経済論集 31 卷 3・4 合併号
1984年4月	単著 社会政策講義資料 [V. ジョージ『イギリス社会と社会保障』をほんやくし、それに解説を加えた]	自費出版
1985年2月	単著 歌志内市の概況	開発論集 35 号
1985年2月	単著 歌志内市の住民福祉施策と住民意識	開発論集 35 号
1985年3月	単著 イギリス貧民法と社会福祉(2)	経済論集 32 卷 4 号
1985年7月	単著 貧民の発生	経済論集 33 卷 1 号
1986年2月	単訳 翻訳書「B. ロジャーズ『貧困との闘い』」	梓出版社
1987年3月	単著 社会保障の権利の生成について	経済論集 34 卷 4 号
1987年2月	単訳 翻訳書「V. ジョージ『イギリス社会保障—ベヴァリッジとその後—』」	自費出版
1988年7月	単著 リベラルリフォームの性格(1)	経済論集 36 卷 1 号
1988年10月	単著 リベラルリフォームの性格(2)	経済論集 36 卷 2 号
1989年1月	共訳 翻訳書(白沢久一と共訳)「V. ジョージ&P. ワイルディング『イデオロギーと社会福祉』」	勁草書房
1989年1月	単著 紹介「『食物、健康、所得』—ジョン・ボイド=オアの調査報告書(1936年)—」	経済論集 36 卷 3 号
1989年3月	単著 投稿 [Peter Ely “Social Welfare in Britain” の仮訳「イギリスの社会福祉—少年非行を中心として—」	経済論集 36 卷 4 号
1989年10月	単著 労働戦線統一の流れをめぐって	北海学園教職員組合

- |          |   |                              |
|----------|---|------------------------------|
| 1990年4月  | 共訳 翻訳書(千葉頼夫と共訳)「G. C. ピーデン『イギリス経済社会政策史—ロイドジョージからサッチャーまで—』 | 梓出版社                         |
| 1990年8月  | 共訳 翻訳(譚清と共訳)「I. マーチン『イギリス人の住宅と住宅政策』」                      | 経済論集 38巻1号                   |
| 1991年3月  | 共著 日本の住宅政策と札幌市の例  | 経済論集 38巻4号                   |
| 1991年9月  | 単著 富と貧困に関するノート  | 経済論集 39巻1号                   |
| 1991年10月 | 単訳 翻訳書「K. O. モルガン『デーヴィッド・ロイドジョージ1863~1945』」               | 梓出版社                         |
| 1992年7月  | 単著 富と貧困に関するノート(2)   | 経済論集 40巻1号                   |
| 1993年2月  | 単著 第1次大戦前英国の失業政策  | 経済論集 40巻3号                   |
| 1993年5月  | 単著 ベヴァリッジの失業理論と救治策(1)                                     | 経済論集 41巻1号                   |
| 1993年9月  | 単著 ベヴァリッジの失業理論と救治策(2)                                     | 経済論集 41巻2号                   |
| 1993年12月 | 単著 レーバーエクステンジの成立  | 経済論集 41巻3号                   |
| 1994年12月 | 単著 イギリス国民保険第II部の成立(1)                                     | 経済論集 42巻3号                   |
| 1995年3月  | 単著 イギリス国民保険第II部の成立(2)                                     | 経済論集 42巻4号                   |
| 1995年7月  | 単著 過労死と企業社会   | 小坂他編『揺れ動く現代世界の経済政策』(法律文化社)所収 |
| 1995年12月 | 単著 過労死の経済的背景と労働実態   | 経済論集 43巻3号                   |
| 1996年3月  | 共著 著書(渡辺貞雄他と共著)『21世紀への社会政策』                               | 法律文化社                        |
| 1996年12月 | 単著 国鉄の分割・民営化と国労運動   | 経済論集 44巻3号                   |
| 1997年3月  | 単著 斉藤過労死訴訟の経過および判決について                                    | 経済論集 44巻4号                   |
| 1997年10月 | 単訳 翻訳書「K. ジョーンズ『イギリス社会政策の形成—1830~1990』」                   | 梓出版社                         |
| 2000年9月  | 単著 著書『イギリス社会政策の形成』  | 日本経済評論社                      |
| 2001年3月  | 単著 オーエンの平行四辺形   | 経済論集 48巻3・4号                 |
| 2001年9月  | 単著 オーエンの計画と経済学者   | 経済論集 49巻2号                   |
| 2003年9月  | 単著 日本労働者の「自主性」の抑圧   | 経済論集 51巻2号                   |
| 2005年5月  | 単著 NTT リストラの背景にあるもの                                       | 北海道過労死問題研究会『巨大企業NTTに勝つ』      |
| 2005年7月  | 共同編集 編集書『労働運動の道しるべ—三好宏一先生論文集—』                            | 三好宏一先生論文集刊行会                 |
| 2006年6月  | 単著 国民の教育権の後退と教育基本法の「改正」                                   | 経済論集 54巻1号                   |

美馬孝人教授 略歴・著作目録等

2006年9月	単著 イギリス・ヴィクトリア期における労働組合の受容について	経済論集 54 巻 2 号
2006年10月	単著 教育基本法「改正」案の危険な内容	札幌唯物論 51 号
2007年6月	共著 1970年代のイギリス国民保健サービス（大西節江と共著）	経済論集 55 巻 1 号
2008年3月	単著 『マルクスの人間主義—その根源性と普遍性—』によせて	経済論集 55 巻 4 号
2008年12月	単著 敗戦直後日本の労働運動（1）	経済論集 56 巻 3 号
2009年3月	単著 敗戦直後日本の労働運動（2）	経済論集 56 巻 4 号
2009年6月	単著 敗戦直後日本の労働運動（3）	経済論集 57 巻 1 号
2009年9月	単著 敗戦直後日本の労働運動（4）	経済論集 57 巻 2 号
2010年3月	単著 敗戦直後日本の労働運動（5）	経済論集 57 巻 4 号